



THE
MAJIKIRI
PROJECT

THE MAJIKIRI PROJECT

商品デザイン 宮部安基子
家具建具製作 草苅木工株式会社
企画プロデュース 西川律子

実施団体: 建具家具普及協議会
蓮見孝/山本知子/武藤順子/宮部安基子/
今村貴子/草苅宏明/西川律子

〒162-0821

東京都新宿区津久戸町1-1 LUCERE403 株式会社アールクロスラボ内
www.rcrosslab.com/iff2018

Product design Akiko Miyabe
Production Kusakari Mokkou Inc.
Planning&Produce Ritsuko Nishikawa (RcrossLab Inc.)

Business Association: Tategu Kagu Promotion Association
Takashi Hasumi /Tomoko Yamamoto /Junko Muto /Akiko Miyabe /
Takako Imamura/Hiroaki Kusakari /Ritsuko Nishikawa

#162-0821

Lucere403, 1-1 Tsukudo-cho, Shinjuku, Tokyo, Japan
www.rcrosslab.com/iff2018



■ 間仕切は空気を演出し、内と外とをゆるやかにつないでいく。

元来、天然の木を利用した建具は、日本の四季の移り変わりに合わせ、室内の湿度を適度にコントロールする機能があり、日本の風土や暮らしに合った道具です。物理的な壁で空間を仕切る西洋の建築と異なり、日本の間仕切は開放的で内と外とのつながりは、かなりゆるやかで、風や気配を通し、壁のように空間を分断することなく、個々の空間を作ることができる間仕切りは、日本の伝統である開放的な空間づくりの思想とも言えます。

間仕切ひとつで、ふたつの空間にもなり、開ければ大きな空間が生まれ、また間仕切ひとつで、自分の空間を持ち、また世界と繋がっていきます。互いの節度と規範で「間」を保ちます。

■ プライバシーの確保は最低限の人権

世界的な建築家 坂茂氏が2018年7月に岡山県倉敷市の避難所の環境改善として再生紙の紙管と布を組み合わせた間仕切りを設置しました。坂氏は、20年以上にわたり、「プライバシーの確保は最低限の人権」と世界各地の避難所の環境改善を進めてきました。間仕切りは使い次第でプライバシーと集中をつくり、わたしたちの住まいをさまざまな形に変えることができます。

■ 日本の生活文化と美意識

平安時代、衝立や屏風で、広い空間を仕切り、またある時は解放し、あいまいさや余韻の中に特有の美意識が作りだされました。季節季節に合わせた調度品を整え、儀式のたびに自分のスペースを演出していました。日本の生活文化と美意識を現在に伝える伝統工芸の多くは、この時代から受け継がれています。空間をインスタレーションする演出力は、平安時代から美意識として、私たちのなかに育まれていたのかもしれない。

■ 働く場をもつとストレスフリーに

ビジネスでの女性の活躍が進む中で、仕事上のストレスがワークバランスを乱すことで自分らしさを失っています。働く女性へのオフィス環境のアンケートの中で、オフィス環境は仕事へのモチベーションに影響を与えるか?の問いには、48.3%が「非常にそう思う」、45.6%が「そう思う」と回答し、93.9%の回答者がオフィス環境によって仕事のモチベーションは変化すると考えていることが分かりました。

ワタベウエディング×日経ウーマンオンライン「働く女性のオフィス環境に関する調査」より

■ 自分(マイ)アドレス

わたしらしさの回復を目指すために、フリーアドレスのデスク上を持ち運びできる最小の間仕切り「自分アドレス」を開発いたしました。デスク上を仕切ることで「わたしだけの場所や時間」を創出します。



THE MAJIKIRI PROJECT

My place. The comforts of being myself.

■ Partitions create an airy atmosphere and gently connect the inside and the outside.

Natural wooden fittings have an innate ability to adapt to the changing seasons and control both humidity and temperature of the room. They are born out of Japan's climate with four seasons and how people have lived for centuries. Unlike Western architecture, where unremovable walls serve as spatial dividers, Japanese partitions are designed to be open in nature, connecting the inside and the outside in a very gentle manner, allowing wind and other signs of the outside to pass through. They create separate spaces without dividing them like walls do, which may be a reflection of the Japanese traditional philosophy of open spatial design.

A partition creates two distinct spaces, but when opened, it creates a larger unified space. One partition is enough to secure privacy, and a simple act of opening it connects us back to the world.

It is through mutual moderation and norm consciousness that we secure our own "space."

■ Privacy is one of our fundamental human rights

World-renowned architect Mr. Shigeru Ban set up partitions made of recycled cardboard tubes and cloths in a shelter in the disaster-stricken area of Kurashiki City, Okayama Prefecture in July, 2018, aiming to improve the living conditions in the shelter.

Mr. Ban has been helping shelters around the world achieve better living conditions for more than 20 years, saying "Privacy is one of our fundamental human rights."

When used properly, partitions create a sense of privacy and concentration, and have the potential to variously change the space in which we live.

■ Japan's lifestyle culture and sense of aesthetics

In the Heian period, people found a unique sense of aesthetics in the ambivalence and transitory nature of panels and folding screens that both separate and unify a large space.

They furnished their houses according to the seasons, and created their own space for every ceremonial occasion.

Our ability to arrange space like a work of installation may perhaps have been born out of this Heian sense of aesthetics and cultivated in our collective consciousness since.

■ Make our workplaces less stressful

Women now have more opportunities in the business scene, but they are losing the sense of who they are due to work-related stress.

A survey of working women on office environment found that 93.9% of women believe that their office environment has an impact on their motivation to work, with 48.3% of them saying that the effect is very significant.

Source: "A survey of working women on office environment," Watabe Wedding & Nikkei Woman Online

■ Jibun (My) Address

Aiming to restore everyone's "my own self" in non-territorial office environment, we developed "Jibun (My) Address," a minimalist portable partition that you can use on your desk that you share with your colleagues to create a separate space of your own.

This partition came into being out of our wish to create "my own space and time."

■ What's Majikiri?

A partition. The partitioning or dividing of an interior or an individual room into separate spaces, allowing for tremendous usage flexibility or concentration. In Japanese traditional architecture movable partitions are common, and can be made of wood.

This partition came into being out of our wish to create "my own space and time."



■ 自分アドレス

わたしが作るわたしだけのアドレス My place. The comforts of being myself.



折りたたみ式
国産檜使用

SIZE W500mm×H400mm×T100mm
MATERIAL a hinoki; a Japanese cypress



人は樹木に癒しを求めます。

樹木は私たちにひらめきを与え、傷ついた心を癒やしてくれます。1982年、当時の林野庁長官の提唱で、森林浴という言葉がうまれました。今では日常のライフスタイルの中に溶け込み、身体に良いとされ、欧米では森林セラピーとして医療の現場で実用化されており、保険が適用される国もあります。

樹木による癒しの科学的側面を一言でいうと「鎮静」と考えています。木に含まれる精油がもたらす香りは、ストレスで高まった交感神経を抑え、落ち着かせてくれます。一方、副交感神経が有意に高まり、緊張や抑うつなどの感情尺度が減少します。このため、集中力が高まり、疲労回復が早くなります。数値化できる生理応答も明らかになっており、血圧の低下や、末梢および脳血流の増加も報告されています。

木を見ると、張り詰めた心が、ふつとゆるみます。木の表面には、ミクロ単位の細かい凹凸があり、これにより光が散乱して反射が弱められるため、目にやさしいのです。木目の特徴である不規則な模様も見ていて飽きません。年輪は幾重にも重なりあい、美しく不規則です。この自然界で作られた天然木に存在する「ゆらぎ」が、人の心に安らぎを与えます。

子供のころ遊んだ積み木に始まり、人は木に触れることに好感を持ちます。かつて森林に立っていた木に、生き物として共感を覚えるからでしょうか。

木の床材の上を歩くと温かく感じ、手で触れるとさらりと心地よく、木のほどよい吸湿性も日常生活にフィットします。

雨の音や小鳥のさえずりなどの聴覚で感じるもの、木漏れ日などの目で見る景色、そよ風や雪など触れて感じるもの、自然界には、人が本来心地よく感じる要素が豊富にあり、心のバランスが保たれているのです。

忙しいビジネスの現場では、ストレスを手放し、心をゆるめる時間、つまり副交感神経の活性が、今一番求められています。

しかし、これまでのオフィスシーンは、等間隔のデスクやスチール製のキャビネットなどの画一化されたオフィス用品で構成され、生産性や効率を考えた幾何学的なものばかりがあふれていました。一日の大半を過ごすワーカーにとって優しいオフィス環境を整えるのも経営者の課題だと考えています。

自分のストレスに目を向けていない人が多いことに、私は危機感を感じています。ストレスを自分の弱さとして無視するのではなく、立ち止まり、見つめて、対策を立てる。この流れが、オフィスでの仕事、環境、健康などの働き方改革につながります。立ち止まるためには、短くても素の自分に戻れる時間が必要です。

好きな本を読む、情報を遮断し心を整える、絵を描くなど、一人一人に合った工夫が必要でしょう。

今回、制作したプロダクトが、オフィスで自分の心をすくひあげる（大事にする）アイテムになる、そんなワクワクした気持ちで応援しています。



武藤順子 株式会社ビーフィジカル 代表取締役社長

体育科学博士・薬剤師 東京理科大学薬学部卒業。日本体育大学大学院修了。野村生物科学研究所、サンド薬品(現ノバルティスファーマ)を経て、医薬翻訳会社を設立。翻訳本:米国最新治験事情(ライフサイエンス選書)など。

その後、大学院でうつ、運動、ストレスなどを研究。Scientific reports、肥満研究などに論文を投稿。現在は予防医学コンサルを主軸に武藤式ダイエット、美容、樹木によるストレス軽減、商品コンセプト設計支援など幅広く活躍。ストレスの対処法は、活性酸素など細胞レベルだけでなく、個性を伸ばし脳の使い方を変える、など全人的アプローチが必要と提唱している。

参考文献

日本官能評価学会誌、1、1、pp37-42、主観評価と生理応答の対応、宮崎 良文(1997)
材料、J. Soc.Mat. Sci., Japan、28、315、102-108、木材の特性 7.木質材料の居住特性、満久 崇麿、増田 稔(1979)
塚田敢、日本建築学会研報、59、21 (1961)。



オフィスづくりに携わるようになって25年になりますが、この間に大きく変わったことと全く変わらないことがあります。

変わったことは、我々ビジネスパーソンを取り巻く環境です。終身雇用・年功序列を前提とした会社との関係は崩れ、活動の主体は組織から個人に加速的にシフトしています。少しずつ判断の自由度が増え、それに伴う結果責任を負う度合いも高まっていると捉えられます。また、テクノロジの発展により多くのツールを手に入れたことで、場所や時間に囚われない働き方の選択肢が増えたことも大きな変化です。

一方で、全く変わらないことは、オフィス環境における最大のテーマが「コミュニケーションとコンセンストレーションの両立」であるということです。

テレワークへの関心が再燃し、在宅勤務など多様な働き方の実践を促進する企業が増える中、オフィスに求められる要件も変化を見せています。

昨今の傾向は、コミュニケーション重視の施策がより強化されていると言えます。フリーアドレスを採用する企業が増え、オフィス内のカフェ風な場の人気が高まっているのも、その流れにあります。一方で、コンセンストレーションできる場が相対的に減り、それを求める声が大きくなっていることも忘れてはならないポイントです。

ひとりの経営者として、「社員にとっての選択肢を増やすこと」がこれからの企業経営にとって何よりも必要なことであると強く感じて、様々な取り組みをしています。

社員の人種や育って来たバックボーンも異なり、役割や働き方も多様で、ライフイベントや家族など自身を取り巻く環境も変化し、そこに個々人の好みも加わる。

硬直化した二様の環境では対応し切れない時代です。社員ひとりひとりが求められる成果は何かを理解してそれを追及する空気をつくることと、そのために必要な環境を提供し個々人の判断で選べるようにすること、対応策はそれしかないと考えています。

オフィスの運営においても同様です。

「どの場所で何をするのが、今の自分にとってベストか？」ひとりひとりがそんな思考をもって、オフィスを使いこなすことが出来れば、その組織のパフォーマンスは間違いなく高まっていくことでしょう。いずれにしても、オフィスを中心とした仕事環境を工夫することで、社員ひとりひとりのパフォーマンスを最大限に引き出す取り組みは、企業経営にとって極めて重要です。

これからのキーワードは「人にやさしく」です。「人間性“や”自然」といったテーマがより大切になります。

オフィスにおける木材の積極活用に取り組んでいる当社としても、建具家具普及協議会の活動を注目し応援しています。



佐藤浩也 株式会社ディー・サイン 代表取締役社長

東京工業大学工学部建築学科卒業。(1989年3月)
株式会社リクルート・日本オラクル株式会社・明豊株式会社(現 明豊ファシリティアークス株式会社)を経て、独立起業。当時、日本のオフィス業界では認識すらされていなかったプロジェクトマネジメントサービスの展開を試みた草分け的な存在。創業間もないリンクアンドモチベーションに、自身の事業を持ち込む形で参画。(2000年7月)
同社取締役、株式会社リンクプレイス代表取締役社長を兼務。
MBOに伴う社名変更を経て現職。(2012年1月)
日本オラクル/リンクアンドモチベーション在籍中、それぞれプロジェクト担当/責任者の立場で、日経ニューオフィス賞 通商産業大臣賞(1995年)/経済産業大臣賞(2001年)を受賞